

- チーム体制等の機動的な見直しを含め、ステージゲート評価に向けてどのような点に留意しつつマネジメントすべきか。
- 将来的な温室効果ガス削減・経済波及効果に対する量的貢献の定量化・可視化、「協調領域」から「競争領域」への移行シナリオ等の検討、オープン・クローズ戦略の策定をどのように進めるべきか。
- 研究成果やデータの共有範囲等についての方針や知的財産に係る方針の策定・見直しにおいて、どのような点に留意すべきか。
- 既存の研究手法を革新する、自動・自律実験等の「新たな研究手法」の導入（研究DX）をどのように推進すべきか。
- 同志国のトップレベル研究機関との戦略的な連携をどのように促進すべきか。

1. 事業全体の主な方向性

- トップレベル研究者によるオールジャパンの「チーム型」で行う統合的な研究開発を支援。
- 将来的に温室効果ガス削減・経済波及効果に対して量的貢献等が期待できる短期（3年程度）・中期（5年程度）・長期（最長10年程度）の研究開発課題を設定。
- 主な支援対象は大学・国研等とするが、必要に応じて技術研究組合や企業等の参画も可能。
- 事業のマネジメントを行う総括責任者としてPD、各領域の責任者としてPO（計3名）を任命。採択審査・ステージゲート評価等において研究開発課題やチーム体制等を機動的に見直し。
- 「協調領域」から「競争領域」への移行シナリオ等を検討しオープン・クローズ戦略を策定。
- 研究成果やデータの共有範囲等についての方針や知的財産に係る方針を策定。
- 既存の研究手法を革新する、自動・自律実験等の「新たな研究手法」の導入（研究DX）。
- 同志国のトップレベル研究機関との戦略的な連携を促進。

2. 各領域における研究開発の方向性

- 上記の観点に加え、科学的にも優れたものであり革新性があるか、アカデミアからの独自性のある貢献が期待できるか等の観点から各領域で研究開発課題を採択予定。

蓄電池領域

<主な研究開発テーマ例>

- 究極の高安全電池（酸化物全固体電池等）の実現
- ナトリウムやマグネシウムを使った資源制約フリー電池の実現

水素領域

<主な研究開発テーマ例>

- 極低コスト水電解システムの実現
- 新たな原理・材料による水素貯蔵システムの実現
- 超高性能な燃料電池の実現

バイオものづくり領域

<主な研究開発テーマ例>

- 微生物や植物を活用した多様な化学品（ゴム製品、化学繊維の原料等）の生産の実現
- ゲノム編集等基盤技術の確立